

埼玉アーツシアター 通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



1

特別対談

埼玉県知事

(財)埼玉県芸術文化振興財団
芸術監督・演出家

上田清司 × 蜷川幸雄



Special Talk 特別対談

上田清司

埼玉県知事
Kiyoshi Ueda

(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督・演出家
Yukio Ninagawa

蜷川幸雄

2006年1月、(財)埼玉県芸術文化振興財団の芸術監督に就任する蜷川幸雄が、埼玉県知事 上田清司と芸術劇場にて、芸術感や劇場のあり方など、埼玉における芸術文化の展望を熱く語り合いました。



photo:小熊栄

芸術的にすばらしく、 大勢の人に 観ていただける劇場に

蜷川 この度は芸術監督に招いていただきましてありがとうございます。

知事 こちらこそ本当にありがとうございます。もともと蜷川さんは「彩の国さいたま芸術劇場」のシンボルになっていらっしゃいましたので、正式に芸術監督になっていただき、大変ありがとうございます。

蜷川 県民の皆さんに喜んでいただければうれしいですね。まずは劇場が愛されないといけないので、それをフォローしてください。

知事 はい、もちろんです。

蜷川 芸術的にすばらしく、なつかつ大勢の人に観ていただける劇場であれば良いなあと思います。難しいのは、大勢のお客様が入るから芸術的に優れているとは限らない。また、入らないから優れていないとも限らない。その両方を相対化しながら、では何が優れているのかという事をジャッジしてくださる皆様が増えると良いと思っています。

また、一方で僕がやろうとしていることは、東アジアの日本に造られたこれだけ優れた劇場が、世界的に普遍性を持っているということを証明することなんです。

知事 そうですね。私たちも、この劇場を造る時には贅沢すぎるのはないかとか、色々な話がありました。思い切って造って良かったと思います。もう事実があり、存在があるので、これを最大限に生かさなければいけないと思います。

蜷川さんのように、本当に天才的かつ想像力のある芸術監督に、これからも色々な事業を展開してもらい、付加価値をさらに付けていただけれ



ばと思います。

蜷川 僕は、川口市生まれなので目線は低いです。ですから親父やお袋達にでも分かるものを創りたいと思っています。しかしそれだけでなく、少數の人に愛される作品があつても良いとは思っていますが、それは小さな公演でやれば良いと思います。

僕は祝福されないで演出家になりました。初めて劇団を作った時には200万円の借金をして作りました。その借金は1年後に返しましたが、その劇団を解散し、次にもう一つ劇団を作った時は1人10万円づつ、4人が集まって40万円でスタートしました。私は、そうして来たので、お金の大切さは分かっています。もっとはっきり言うと、税金を使わせていただいて仕事をすることの怖さと、公共性というものをどのように捉えなければいけないかについても、少しは分かっているつもりです。大金のかかる時もありますが、そのあたりのバランスは信じていただきたいと思います。

知事 昨年度から財団の経営者として竹内理事長が来られ、チケット収入や民間からの協賛金などの自主

財源と県や国からの補助金との収支バランスの目標値を設定したことでの収支が良くなっています。これから課題は、収支の悪いものでも意義のあるものは思い切ってできるようにするために、前年に努力して残したお金を使えるような仕組みづくりが大切だと思います。また、場合によっては蜷川さんの方から理事長に「少し採算ベースを度外視して、これをやるから特別に税金を使うように知事に言って欲しい。」というお話を聞いていただいてもかまわないと思っています。県民と議会の理解を得られる範囲内で私なりに判断したいと思います。

蜷川 それはとってもありがたいお言葉です。そういう知事のご意向を受け、責任をもってやっていきたいと思います。

街の色々な人が 応援してくれる劇場に

蜷川 英国の国立劇場は大中小あります、3つの劇場の入口がほぼ同じで、ロビーがあって、そこで音楽を演奏していたり、カフェがあったり、

Yukio Ninagawa



蜷川 この劇場で良い作品を常にやれるようになれば、活性化されて人通りも多くなり、お店も増えてくると思います。

知事 与野本町駅からここに来る間に楽しみな空間がいくつもできてくるようになると来やすくなります。駅の名前も「与野本町」から「彩の国さいたま芸術劇場前」とか、あるいは「芸術劇場前」などになれば一番良いと思います。

蜷川 本当ですよね。

知事 そうすると分かりやすく、降りやすくなります。「与野本町」の下に、カッコ書きだけでも良いから書いてもらえるようJRにお願いしたいと思います。

蜷川 そのようになると良いですね。ところで、この界隈にある大学は埼玉大学ですか。

知事 一番近いのはそうです。

蜷川 僕はエジンバラのフェスティバルで僕自身が発見されたんです。その後、エジンバラの大学が僕に名誉博士号をくださいました。そこでは僕のことを自分たちが発見したという誇りがあり、僕がエジンバラに行くと

「ニナガワが帰ってきた」と、僕の歓迎のために大学の図書館を開放して、学長を先頭に全員で晚餐をするんです。私は、「ああ、やっぱりイギリスの文化の深さはこういうところにあるんだな」と思いました。

知事 ストリートの周辺が何もないで、歩くと遠く感じるんですね。例えば表参道などは原宿駅を降り、10分歩こうと15分歩こうと退屈しないと思います。この劇場もそのような部分を考えなければいけないなと思っています。

くれて、ちゃんと送ってくれるんです。そのようにして、単に劇場だけでなく、大学とか知的な階層の人たちも含めて、街の色々な人たちが応援してくれます。私は、「さすがフェスティバルをやる都市だ」と感動しましたが、この界隈も大学と一緒にそういう風にしたいです。

知事 そうですね。

何が優れているのかとい う事をジャッジしてください 皆様が増えると良いと思 っています。—— 蜷川



「ぶち壊して新しく再編成 する」という、 その手法にとても共感を 覚えました。—— 上田

「彩の国だより」に 「芸術のコーナー」を

蜷川 今日はぜひ、知事にお願いしたいことがあります。

県の広報誌「彩の国だより」に芸術劇場のページを1ページ作っていただけないでしょうか。今の「彩の国だより」ですと芸術劇場の公演がよく分からないんです。常に埼

玉県の芸術は何がいつどこであつて、内容はどんなものだという事がわかるように、どこかにまとめて、しかももう少し華やかに目立たせていただけないでしょうか。

知事 例えれば、「芸術のコーナー」があっても良いのではないかということですね。

蜷川 これはお約束していただけるでしょうか。

もしないと文化情報は伝わりません。

広報誌や情報誌には喚起力が必要なのです。僕らの劇場を中心とした公演や講座やイベントについてはニュースのあり方、伝え方も変えようと思い、この財団の情報誌もこの号から一新しました。

「蜷川劇場」で 良いものをいっぱい

蜷川 知事に県民代表として、これだけは我々に伝えておきたいという事がありましたら、おっしゃっていたいと思います。

く、楽しく、表現していただき「なるほど、シェークスピアはこういうものだったのか。やはり優れた文学、優れた芸術は良いなあ。」と県民にも感じてもらえば、私としてはそれだけでもすごいなと思います。

蜷川 今の言葉を全て励ましの言葉と受けとめて、精一杯やらせていただきます。

どうぞよろしくご支援をお願い致します。

知事 新境地を開いていただきたいと思って大変期待しておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

Kiyoshi Ueda



知事 本当に思い切ってやっていたいと思います。蜷川さんの良いものをいっぱい出してもらわないと意味がなくて、そのうちに「蜷川劇場」と言われても良いような気がします。蜷川さんが芸術監督として指揮をとられるにあたり、注文を付けるようなことはありません。

私が思うのは、否定してつくりあげるのが芸術だとしたら、行政でも過去のものを否定して、新しいものをつくる。しかし、完全に過去のものを否定するわけではなくて、過去のものも生かしているわけで、それに何か一つ付加価値を付けていくということでは、まんざら芸術と違う話ではないと思っています。

ですから蜷川さんの本を読んだ時に、「ぶち壊して新しく再編成する」という、その手法にとても共感を覚えました。このあいだ観させていただいた「天保十二年のシェークスピア」などは掛け値なしに面白かったです。シェークスピアを分かりやす

上田清司(うえだ きよし)
1948年5月15日 福岡県福岡市生まれ。75年3月早稲田大学大学院政治学研究科修了。76年新自由クラブ立党に参画。79年~86年 建設省建設大学校非常勤講師「地域社会論」「国土計画論」担当。80年より衆議院選に挑戦。4度落選するが、不届の議員で5度目(93年7月)に初当選後、96年、2000年と連続当選する。03年9月埼玉県知事に就任。著書「法律はお役人のメシの種」(オーエス出版)

世界のNINAGAWA

(財)埼玉県芸術文化振興財団の新芸術監督へのメッセージ



『朝からビフテキ食ってますか?』

演出家 野田秀樹 Director Hideki Noda

私は16歳で蜷川演出の芝居を見たことが自慢だ。

新宿のアートシアターという、もはや潰れてしまった小劇場で、当時それはアングラ芝居と呼ばれていた。私が若いころ、もっとも感激した二つの芝居のうちの一つになった。(もうひとつは、ピーター・ブルック演出の『真夏の夜の夢』である。)私はその時、蜷川幸雄という名前を脳の髪にしっかりと刻み込んだ。だからそのころ、蜷川さんの発言をよく覚えている。今のように、たくさんの演劇雑誌や情報が氾濫していたわけではない。それでも、その言葉をキャッチした。

「俺は、朝からビフテキを食う」

中でも、この言葉が十代のわたしには鮮烈だった。貧乏くさいアングラ芝居が全盛の時代にそのアングラ出身の演出家の心意気がうれしかった。なんだか、芝居を始めたばかりの若い連中すべてに向けられた挑発のように聞こえた。これから、長い長い芝居の旅が始まる。それには、膨大なエネルギーが必要だぞ。朝からサラダなんか食ってる場合じゃねえぞ!そんなことだったんじゃないだろうか。

以来、私は、エネルギーのない芝居だけはやったことがない。その意味で私は蜷川さんに直接教えを受けたことはないが、勝手にその精神を受け継いでいるつもりだ。

このたびは(財)埼玉県芸術文化振興財団の新芸術監督になると聞き、まだ蜷川さんが新しいことをや続けるつもりだと知り「蜷川さん、朝からビフテキを食ってるね」と一人ほくそえんでいる。もっとも、もう誰もがビフテキなんてコトバ、使わなくなったけれども。

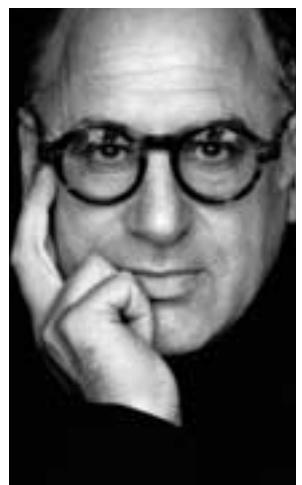
出し惜しみしない男

評論家 三浦雅士 Critic Masashi Miura

蜷川幸雄の舞台の印象を一言でいえば出し惜しみしないということに尽きる。舞台でこんな贅沢なことをしていいのかと思った最初が蜷川幸雄の芝居『真情あふるる軽薄さ』で、二度目がフランコ・ゼフィレッリのオペラ『ラ・ボエーム』だった。最初の体験は40年近い昔の話で、幕切れで機動隊(じつは役者たち)に取り囲まれたときには驚いた。一人を際立たせるには集団が、集団を際立たせるには一人が必要なのだろうが、まったく贅沢な話だ。質素を際立たせるには贅沢が、贅沢を際立たせるには質素が必要なのかもしれないが、不思議なのはしかし、蜷川幸雄の手にかかると、贅沢はあたりまえのように贅沢に見え、他方、質素もまた贅沢に見えてくるのである。

これはとても重要なことだ。というのは、舞踊も演劇も音楽も、もともとは身体芸の椀飯振舞い、ボトラッヂ、お祭りのようなもの、いやお祭りそのものだったからである。それが近代になってどこかしんなりむつりした深刻なものになって、とうとう不条理劇にまでなってしまったわけだが、出し惜しみしない男・蜷川幸雄は、その正反対だった。反時代的といつてもいい。反時代的だったこの男を時代のほうが追いかけてきて、結局は世界の蜷川になってしまったわけだが、我田引水を承知でいえば、それは要するに演劇の舞踊化という大きな流れのなかで蜷川幸雄の才能が花開いたということなのだ。いまや美術でさえも舞踊化、といって悪ければ舞台芸術化している。世界中の美術館が劇場になろうと躍起になっている。美術もまた舞踊や演劇のように体験されるべきものに、つまり原初の姿に戻ってきてているのだ。

バレエは身体芸の椀飯振舞い。もしも蜷川幸雄が『白鳥の湖』や『胡桃割り人形』や『眠れる森の美女』を演出したらどうなるだろうか。ありえないなどと言ってはいけない。出し惜しみしない男・蜷川幸雄である。何が起こるか分かりはしない。世界は固唾を呑んで見守っている。



作曲家 Composer マイケル・ナイマン Michael Naiman

(財)埼玉県芸術文化振興財団が蜷川さんを新芸術監督に任命したことは、心から感動的なことであり賛成なことでもあると思います。日本にとって、そして私にとってはさらに重要なことです、世界的に蜷川作品は伝説的であり、力強く、幻視的で、想像力に富み、勇敢です。この前彼にお会いしたとき、芸術家としての自分(すでに上級!)を絶えず自己改革しているという事実に驚かされました。過去の成功を単に繰り返すだけでも認められるというのに、彼がこういった芸術的演出家精神を自分の創造的プロジェクトすべてに付け加えようとしているとは思いも寄りませんでした。

I find it both deeply moving and enlightened of Saitama Arts Foundation to appoint Ninagawa-san as their new artistic director. Within Japan and, more importantly to me, internationally, Ninagawa's work is legendary - powerful, visionary, imaginative, and always courageous. When I last met him and marvelled at the fact that for an artist of his (advanced!) he is constantly re-inventing himself, when it would be acceptable merely to repeat his past successes, little did I know that he would add this artistic directorship to his list of creative projects.
Michael

プロデューサー セルマ・ホルト 上級勲爵士 Producer Thelma Holt, CBE

蜷川さんが2006年より(財)埼玉県芸術文化振興財団の芸術監督に任命されたことは、私に二重の喜びをもたらしてくれました。ご就任されたこと自体の喜びだけでなく、私が再び埼玉を訪れる理由ができたのです。これは私個人にとって大変嬉しいことです。

彩の国さいたま芸術劇場は英国の演劇関係者の心の中で非常に温かい場所として存在しています。とりわけここが、蜷川さんのあの忘れがたい作品、サー・ナイジェル・ホーソーンが主役を演じた「リア王」を上演した素晴らしい劇場であり、しかもこの作品がその後ロンドンでもシェイクスピアの故郷ストラットフォード・アポン・エイヴォンのロイヤル・シェイクスピア劇場でも上演するという栄誉を授かったのです。

国際的なステータスが他を抜きん出ている演出家の数は限られています。そのような演出家のお世話をさせていただくのは大変名誉なことです。私は20年間蜷川さんのお手伝いをさせていただいた経験からこう言えるのです。蜷川さんの業績が世界の演劇界で認められ、英國政府から上級勲爵士を叙勲されたとき、私たちちはこの上なく誇りに思いました。英国人でない演出家がこういった栄誉を授かるることは非常に珍しく、これで私は10年多く寿命をいただいたように思います。

2006年、私たちはホリプロと(財)埼玉県芸術文化振興財団の協力により、RSCのコンプリート・ワークス・フェスティバルの一環として蜷川さんの「タイタス・アンドロニカス」をストラットフォードにお迎えすることになっています。2007年にはオックスフォード大学マグダレン・カレッジにいらしていただき、私たちが古代ギリシア劇を理解する手助けをしてくださいます。キャメロン・マッキントッシュの後援の下、オックスフォード大学演劇協会への協力を通じて、大学生たちへの彼の激励は、この芸術形式の将来における彼の絶えることのない信念を実証してくれます。

蜷川さんと埼玉の結びつきは完璧です。2006年後半の、彼らの努力の成果に大いに期待します。私は日本へ行くことをいつも楽しみにしています。このような素晴らしい劇場で蜷川さんの作品をまた観ることができるのは、私にとってまたとないご褒美になるでしょう。

The announcement that Ninagawa had been appointed Artistic Director of Saitama Arts Foundation from the beginning of 2006 gave me cause for double celebration. Apart from the pleasure such an appointment provides, it also means I have an excuse to travel to Saitama again. That gives me great personal joy.

Saitama Arts Theatre a very warm place in the hearts of theatre people in the UK, not least because of our experience in your wonderful theatre with Ninagawa's unforgettable English-speaking production of KING LEAR with Sir Nigel Hawthorne in the title role, a production which we subsequently had the honour to present in London and in Shakespeare's home at the Royal Shakespeare Theatre, Stratford-upon-Avon.

There are a small number of theatre directors whose international status sets them apart from the rest of the profession, and those of us who serve them are very privileged to do so. I can say that after the honour of serving Ninagawa for 20 years. We were enormously proud when Ninagawa's work in world theatre was recognised by his being presented with the Hon.CBE by the British government. Very few non-British directors have been honoured in this way, and I know it gave me 10 extra years of life. In 2006 we will be welcoming Ninagawa to Stratford where in association with Horipro Inc. and Saitama Arts Foundation. We shall be presenting his production of TITUS ANDRONICUS as part of the RSC's Complete Works Season.

In 2007 he will visit Magdalen College Oxford to help us understand ancient Greek drama a little better than we do. His encouragement of our university students through his support of Oxford University Dramatic Society, under the auspices of Cameron Mackintosh, demonstrates his continued belief in the future of our artform.

Ninagawa and Saitama are a perfect marriage, and I look forward to the fruits of their labours later in 2006. For me travelling to Japan is always a journey I look forward to, and it will be an added bonus that I will once again be seeing Ninagawa's work in such a splendid theatre.

THELMA HOLT, CBE



彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾

間違いの喜劇

ス ャ オ ヤ ヤ ベ

男たちのシェイクスピア
2組の双子たちの、
間違いにつぐ間違いから起きる喜劇。

『間違いの喜劇』は、瓜ふたつの双子二組が巻き起こす混乱のせいで、シェイクスピア喜劇の中でも最も狂騒的で晴朗だ。幼いときに生き別れになつたそれぞの兄を捜すため、エフェソスへやつて来たシラクサの主従アンティフォラスとドローミオ。エフェソスのアンティフォラスは街の名士で、エイドリーナという気の強い女性と結婚している。混乱の火種が飛び込んできたとは露知らない街の人々は、シラクサの主従を昔からの知己と思い込む。当然二人は事ある毎に「?」である。人違う側にとっては彼らの反応が「旧知の主従」の異様な言動と映る。それどころか当人たちも何が何だか訳が分からなくなる。その上シラクサのアンティフォラスは、エイドリーナの妹に一目惚れしてしまう。さあ大変、彼女には義兄がトチ狂ったとしか思えない。人が混乱すれば、モノも混乱。金の首飾りだの金だのが取り違えた相手の手に渡り、しまいには訴訟騒ぎまで持ち上がる。

大詰めは、そもそも海難事故でばらばらになった父母を含む一族の再会だ。目の前にアンティフォラスとドローミオが二人ずついるのだから、誰も彼もが驚愕の極み。抱腹絶倒でありながらジーンとさせられる。奇跡を目の当たりにするような至福感がある。

双子の片割れを探しにきたはずが、海に落ちたしづくのように自分を見失い、相手を見出すと同時に自分をも見出す。『間違いの喜劇』は自己発見と自己認識の劇である。

松岡和子

彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾

間違いの喜劇

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア 【翻訳】松岡和子
2月3日(金)～2月19日(日) <18公演>
【会場】彩の国さいたま芸術劇場大ホール

【一般】
S席 9,000円 A席 7,000円
B席 5,000円 (全席指定・税込)
学生席 2,000円 (学生席は芸術劇場のみ取扱)

【メンバーズ】
S席 8,100円 A席 6,300円
B席 4,500円 (全席指定・税込)

【出演】
アンティフォラス兄・弟(2役):小栗旬
ドローミオ兄・弟(2役):高橋洋
エイドリーナ:内田滋
ルシアナ:月川悠貴
エミリア:鶴見辰吾
イジー:吉田鋼太郎
バルザー:蜷川哲朗 他
美術:中越司
照明:原田保
衣裳:宮本宣子
音響:井上正弘
ヘアメイク:佐藤裕子
音楽:笠松泰洋
振付:青木美保
腹話術指導:いっごく堂
演出助手:井上尊晶
舞台監督:白石英輔

STORY ストリー

場所はエフェソス。シラクサの商人イジー・オンは、嵐で離散した家族を探す旅の途中通り着いたエフェソスの港で逮捕される。エフェソスとシラクサは対立しており、両国にお互い足を踏み入れたものは死刑か罰金を支払わなければならぬが、イジー・オンは十分な金を持っていなかった為に公爵ソライナスから死刑の宣告を受ける。イジー・オンは公爵に妻エミリア、双児の息子(アンティフォラス)、また召使いとして育てたもう一組の双児(ドローミオ)がバラバラになっている事情を説明、許しを乞う。公爵はイジー・オンに一日の猶予を与え、保釈金を集めよう命じる。

その頃、偶然、兄探しの旅に出ていたアンティフォラス弟とドローミオ弟もエフェソスに到着する。エフェソスには彼らの兄が住んでいるが、弟がすぐ傍

にいる事など知る由もない。

アンティフォラス弟は召使いに用を言いつけ一人で町を歩いていると、召使い(自分の召使いではなく、双児のドローミオ兄)が戻ってきて、妻エイドリーナから食事に戻るよう、奥様が待っている、などと奇怪なことを言われる。アンティフォラス兄弟の前に召使いのドローミオ兄弟がそれぞれ入れ替わり現れ、事態は混乱し始める。

訳の分からないまま帰宅する弟たち。その後、アンティフォラス兄本人が友人たちと帰宅するものの、本人と気付いて貰えず門さえ開けてもらえない。門を打ち破り家に入ろうとする兄だが、友人に止められ、仕方なく外食に出掛ける。

知らない人々から話しかけられることに気味悪くなりエフェソスから逃げ出そうとする弟たち。アンティフォラス兄が妻のために注文した金の首飾りを弟が

受け取ってしまったために、「何も受け取っていない」と金細工師への代金の支払を拒んだ兄は逮捕されてしまう。夫の気が狂ってしまったと思い込む妻エイドリーナは、アンティフォラス兄を自宅に連れ戻す。そこに現れる弟。エイドリーナは夫が逃げ出したと思い捕まえようとし、弟たちは修道院に逃げ込む。

修道院主エミリアに夫を引き渡して欲しいと頼むエイドリーナだが、エミリアはこれを拒む。エイドリーナは憤慨し、イジー・オンを連れて処刑場に向かうため通りかかった公爵ソライナスに訴える。妻に家を締め出されたことを訴えるため姿を見せるアンティフォラス兄。そこにエミリアが弟たちを連れて現れ、ついに再会する父と二組の双児たち。エミリアが彼らの母親だということを判明し、イジー・オン処刑は取り止め。家族全員の再会を祝し、宴が開かれる。





タイタス・アンドロニカス

Titus Andronicus

現代にも通ずる復讐の連鎖。

歴史は繰り返す。一度目は悲劇として、二度目は……。

蜷川幸雄が2004年初頭に挑んだ、シェイクスピア戯曲中、最も凄惨と言われる作品。古代ローマを舞台に、ローマ人、ゴート族、ムーア人など民族入り乱れての報復合戦を描く。舞台は真っ白。中央にそびえるローマの象徴・牝狼の像もひたすら厳か。中で流されるおびただしい血は緋色の糸、転がる生首、死体は透明プラスチック製で、むごいはずの情景が美しくさえ見えてくる。劇中、黒い肌を差別されるムーア人工アロンが「(白は)裏切りの色だ。赤くなるばかりにこっそりやったことも、胸の奥の秘密もバレちまう」と絶叫するが、蜷川が選んだ白の世界では、赤い血や黒い肌が発する混沌、活力、尊さ等々さまざまな意味や、人間の愛憎、欲望、狡猾さ、嘆き……幾多の感情の陰影がくっきりと際だつ。主人公のローマ帝国武将タイタス役・吉田鋼太郎のしなる鞭の如く一撃必勝な表現力や、ゴート族タモーラ役・麻実れいの誇り高い女王ぶり、ラストシーンの胸を突く演出など、俳優の生のエネルギーが強烈であるほど、観る者の心は激しく揺さぶられる。登場人物が殺戮に向かう姿が、9.11以降の不穏な世界情勢とも重なると、初演では話題を呼んだ。再演では、エアロンに『間違いの喜劇』でも主役を演じる小栗旬がキャスティングされ、蜷川シェイクスピアづく若手俳優として期待が集まる。強力タッグで6月には、英国で行われるシェイクスピアの祭典・RSC主催「コンプリート・ワークス」に日本から唯一参戦する。

木俣冬

STORY ストーリー

ローマの帝位継承権を争う、前皇帝の息子サターナイナスとバシエイナス兄弟。そこにゴート族との戦いに勝利したタイタスが凱旋帰国する。多くの息子を戦いで失ったタイタスは、彼らを弔う為に、捕虜にしたゴート族女王タモーラの懇願を無視して、彼女の長男を生贅として切り刻んで燃やす。復讐劇はここから始まる。

タイタスは新しいローマ皇帝としてサターナイナスを推薦する。サターナイナスは感謝のしるとして、タイタスの娘ラヴィニアを妃として迎えようとするが、

ラヴィニアはバシエイナスを愛しており、これを断る。怒ったタイタスは、見せしめに自分の末息子を一人殺してしまう。侮辱に憤怒したサターナイナスはタモーラと結婚し、タイタスを追放する。

タモーラの口添えでサターナイナスはタイタスを許すが、タモーラは心の中でタイタス一族への復讐心を燃やしていた。彼女は愛人のムーア人工アロンの策略で、自分の息子たちをそそのかし、森の中でバシエイナスを殺害。さらに息子たちは一緒にいたラヴィニアを強姦し、その後彼女の両腕と舌を切断する。狩りから帰る途中のタイタスの弟マーカスは、変わり果てた姿で森をさまざまラヴィニアを発見し、その残酷な犯罪行為に憤り涙する。

タイタスの息子たちがバシエイナスの遺体を発見したところへ、タモーラとサターナイナスが現れ、彼らがバシエイナスを殺害したと思い込む。タイタスの息子らは死刑宣告を受け、もう1人の息子ルーシアスは国外追放となる。タイタスは息子たちを救おうと、自分の片手を切り皇帝に献上するが、その手は息子2人の生首とともにつき返される。更にラヴィニアを陵辱した犯人を知り、タイタスはタモーラへの復讐を誓う。

タモーラは、エアロンとの間にできた黒い肌の男児を産むが、彼との関係がサターナイナスに知られることを恐れて子どもを殺そうとする。エアロンは息子を連れ去るが、ローマに進軍していた、ルーシアスに捕まり、息子の命を救うために全ての悪事を白状する。

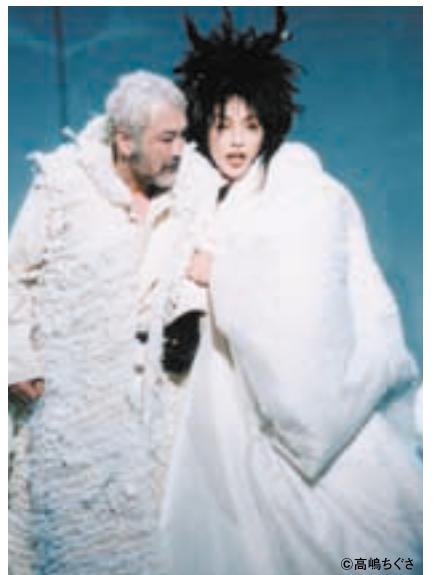
タモーラは2人の息子とともに変装してタイタス邸を訪ね、ルーシアスのローマ進撃を止めるよう説得させようとする。騙されたふりをするタイタスは、タモーラがサターナイナスのもとに戻っている間に息子たちを殺す。タイタスはさらにその死体でパイを作り、その後タイタス邸にやって来たサターナイナスとタモーラにパイを食べさせる。その食事の席でタイタスはラヴィニアを殺し、タモーラも殺害。妻を殺されたサターナイナスはタイタスを殺し、父を殺されたルーシアスはサターナイナスを殺す。こうしてルー

シアスは新しいローマ皇帝となり、悪の根源エアロンを生き埋めにして、この残酷な復讐劇の幕が下りる。

CRITICISM 2004年公演劇評より

——ニナガワの演出的なマジックが、「タイタス」の美しい血煙りの中に、普遍的な価値が失われていることを表面化させた。ニナガワは「タイタス・アンドロニカス」を新しく定義しなおした
(ジャパン・タイムズ紙)

——吉田鋼太郎のタイタスは爆発的なエネルギーを放射。麻実れいは母親の悲しみと怒りを大きな振幅で見せた
(朝日新聞)



英國ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー主催
「シェイクスピア・フェスティバル」正式招待作品

タイタス・アンドロニカス

【演出】蜷川幸雄 【作】W・シェイクスピア
【翻訳】松岡和子

4月21日(金)～5月7日(日) <20公演>

【会場】彩の国さいたま芸術劇場大ホール

【一般】(全席指定・税込)

S席 9,000円 A席 7,000円 B席 5,000円

(※未就学児の入場はご遠慮ください。)

【メンバーズ】

S席 8,100円 A席 6,300円 B席 4,500円

【出演】
タイタス・アンドロニカス 装置:中越 司
吉田鋼太郎 照明:原田 保
タモーラ 衣裳:小峰リリー
麻実れい 音響:井上正弘
エアロン ヘアメイク:武田千春
小栗旬 音楽:笠松泰洋
ラヴィニア 演出助手:井上尊晶
真中 瞳 舞台監督:明石伸一
マーカス・アンドロニカス 壇晴彦
サターナイナス サターナイナス
鶴見辰吾 他

ダンスの革新者たち。ダンス史上に燐然と輝く2人のアメリカ人 *Trisha Brown & William Forsythe*

トリシャ・ブラウン。1960年代のアメリカで、それまでのバレエやダンスがもっていた制約を見直し、同時代に生きる他のジャンルのアーティスト達と共に、ダンスの新たな可能性を探る。日常的なことがらや仕草を取り入れ、即興的な動きからダンスを生み出すことで、ダンスの根源を問い合わせた振付家。

ウィリアム・フォーサイス。1980年代はじめにフランクフルト・バレエ団というオペラ座付きのバレエ団に身を置きながら、クラシックバレエ言語を容赦なく解体し、現代に相応しい新たなバレエ／ダンス言語メソッドを開発した振付家。

バレエ、ダンスの限界に果敢に挑み、その可能性を大きく広げた二人の革新者。その二人の作品が埼玉で上演されます。

Trisha Brown

トリシャ・ブラウン・ダンス・カンパニー

Dance Company

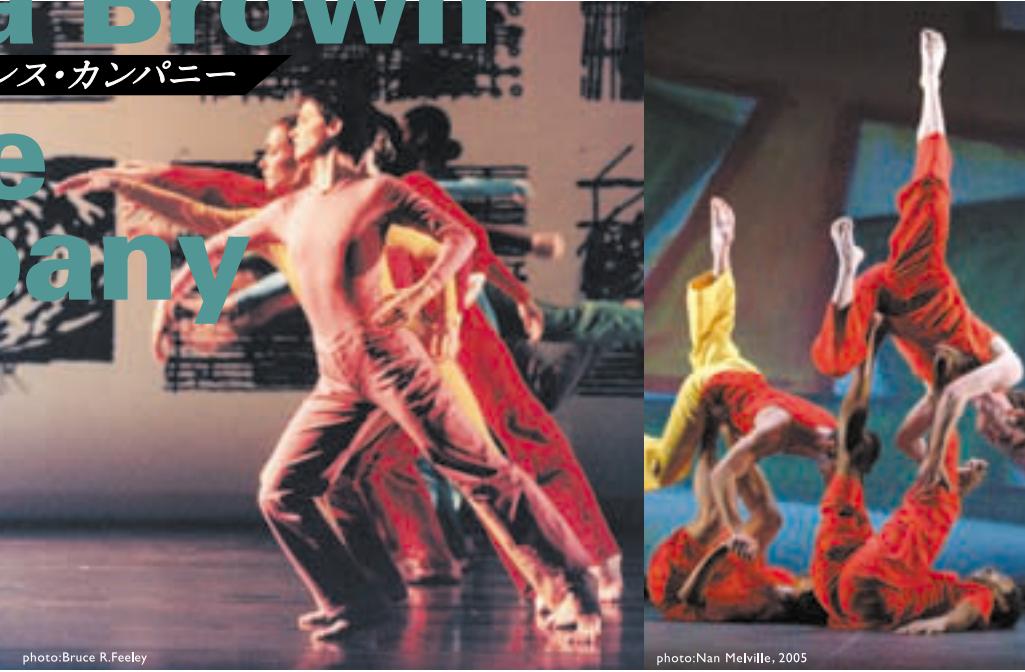


photo:Bruce R.Feeley

トリシャ・ブラウン・ ダンス・カンパニー

3月24日(金) 19:30
3月25日(土) 15:00
3月26日(日) 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場大ホール

【一般】 S席 7,000円 A席 5,000円

学生A席 2,000円 (全席指定・税込)

【メンバーズ】 S席 6,300円 A席 4,500円

【演目】

『アクシムレーション ウィズ・トーキング・プラス・ウォーターモーター Accumulation with Talking plus Watermotor』 (映像上映)
監督:ジョナサン・デミ 振付・出演:トリシャ・ブラウン
製作:1979年

『セット・アンド・リセット Set and Reset』

振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ローリー・アンダーソン

美術:ロバート・ラウシェンバーグ 初演:1983年

『プレゼント・テンス Present Tense』

振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ジョン・ケージ

美術:衣裳:エリザベス・マーレイ 初演:2003年

『グルーヴ・アンド・カウンタームーヴ Groove and Countermove』

振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ディヴィ・ダグラス

美術:テリー・ウィンタース 初演:2000年

ポストモダン時代に登場した、世界的に最も評価の高い振付家の人。1960年代のニューヨークの前衛芸術運動、ジャドソン・ダンス・シアターで活動を開始したブラウンは、イヴォンヌ・レイナーやスティーヴ・パクストンらとともに、ダンスのあり方を根源的に問い合わせ、振付の限界に挑むことで、ダンスの歴史に大きな変革をもたらした。1970年には自らの舞踊団を設立。屋根や壁を含めたあらゆるオルタナティブ・スペースを利用して、初期のダンス作品を作り出していった。重力を使って反重力に挑んだ伝説的な作品『建物の壁を歩く』(1971)は、身体の非日常的なコンテキストを模索する、若い振付家や舞台演出家たちの作品に多大な影響を与えた。80年代には、いくつかの作品群を関連づけ、「サイクル」と開している。

いう概念を導入することで、自らの複雑な動きの考え方を模索する試みを始めた。1983年には、ロバート・ラウシェンバーグ／ローリー・アンダーソンとのコラボレーション『セット・アンド・リセット』(1983)が、「サイクル」の概念を初めて全面的に展開した『Unstable Molecular Structure (不安定分子構造)』のレパートリーに加えられ、流動的で予測不可能な幾何学的スタイルが確立された。近年も、現代ジャズ音楽の構造を探求した、『グルーヴ・アンド・カウンタームーヴ』を含む3部作『エル・トリロジー』(2000)で、21世紀を告ぐる新たな方向性を示し、パリ・オペラ座バレエ団の委嘱により、新作『O zlozony/O composite』(2004)を振り付けるなど、旺盛な活動を開いている。

The Forsythe Company 2006



"One Flat Thing, reproduced" photo:Dieter Schwer Dancers: Ballett Frankfurt



Photo: Stephan Floss photo

Profile プロフィール

ウィリアム・フォーサイス

1949年ニューヨーク生まれ。ジョフリー・バレエ学校にて学ぶ。73年にシュトゥットガルト・バレエ団にダンサーとして入団するが、その後、振付に専念。84年フランクフルトバレエ団の芸術監督に就任。99年よりフランクフルトの実験的シアターであるBockenheimer Depot (TAT) の芸術監督も兼任。04年7月にフランクフルトバレエ団の芸術監督を退くと共にフランクフルトバレエ団は解散。05年1月、自身のカンパニー The Forsythe Companyを結成、現在に至る。現代を代表する振付家として活躍し、世界各地のバレエ団がフォーサイスの作品をレパートリーとしている。

The Forsythe Company 2006

[Aプログラム]

"You made me a monster"

Performance-Installation 日本初演

2月28日(火)/3月1日(水)

1日4回 17:00/18:00/19:00/20:00
(オールスタンディング・各回85名限定 入替制)

【一般】 前売 8,000円 当日 8,500円

【メンバーズ】 前売 7,200円 当日 7,650円

[Bプログラム]

"Clouds after Cranach"

"7 to 10 Passages"

"One Flat Thing, reproduced"

3月4日(土) 19:00

3月5日(日) 16:00

【一般】

前売 S席 10,000円 A席 8,000円

学生B席 5,000円 (前売りのみ)

当日 S席 11,000円 A席 8,500円

【メンバーズ】

前売 S席 9,000円 A席 7,200円

当日 S席 9,900円 A席 7,650円

各プログラム 彩の国さいたま芸術劇場大ホール

Emilia Galotti



photo:IKO FREESE/DRAMA

エミーリア・ガロッティ

ドイツ語上演・日本語字幕付
東京国際芸術祭招聘公演

高く左右にそびえたつ壁、奥行きの深い舞台空間、
一日の流れとともに美しく変容する照明、甘美なワルツの調べ…
花火のように鮮烈で夢い工口ティシズムへと誘う
『エミーリア・ガロッティ』の世界。

ウォン・カーウァイ監督の映画『花様年華』の主題曲にのせ、ファッショショーンショーよのような美しさですれ違い、見つめあう、男と女。言葉なき言葉が、繊細な身体の動きによって官能的に語られる。一方、烈火の勢いで台詞が吐き出されたかと思うと、突然、相手を指で突つつく、飛び跳ねる、浮遊するように歩き出すなど、身体／言葉／感情の狭間にある深淵に切り込むようなコンセプチュアルな演出が施され、その機微が圧倒的な演技力を持つ俳優たちによって演じられる。世界の劇場で上演され絶賛されている、ドイツ座『エミーリア・ガロッティ』。待望の初来日公演。

STORY ストーリー

エミーリアを一目見て恋に落ちた公爵が、ある朝、愛の言葉を耳元で囁く。侍従マリネッリの策略によって彼女の婚約者は殺害される。何も知らずに、公爵邸に連れてこられるエミーリア。一方、公爵に裏切られ、プライドを著しく傷つけられた元恋人才ルシーナ伯爵夫人は、エミーリアの父親に公爵が娘を誘惑したことを告げ、復讐するように仕向ける。公爵を殺し、娘を連れ戻そうとする父親に、静かに対峙するエミーリアは、自らの中に官能を見出しちゃったことを告白し、自分にピストルを渡すように請う。

Profile プロフィール

【ドイツ座】

旧東ベルリンに位置する古い歴史を持つ劇場で、ロココ式の豪華な中劇場(622席)とカンマーシュピーレ(422席)の2つの舞台を持つ。質の高い舞台を提供することで定評があり、マックス・ランハルト、ハイナー・ミュラーら多くの演劇人が活躍した。近年では、若い世代の演劇人に機会を与え、数々の才能を輩出している。

エミーリア・ガロッティ

3月19日(日) 15:00
20日(月) 19:30
※終演後ポスト・パフォーマンス・トークあり
21日(火・祝) 15:00(計3公演)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場大ホール
【一般】S席5,000円 A席3,000円 学生席1,000円
【メンバーズ】S席4,500円 A席2,700円
原作:ゴットホルト・エフライム・レッシング
演出:ミヒャエル・タールハイマー
出演:ドイツ座
主催:NPO法人アートネット・ワークジャパン
財団法人埼玉県芸術文化振興財団
東京ドイツ文化センター
助成:財団法人地域創造/アサヒビール芸術文化財団
特別協賛:アサヒビール株式会社



中村紘子音楽監督プロデュースによる
「ピアニスト100」2006年シリーズ
 (No.91～No.100)

～100人を聴く10年、ついにラストシーズンへ～

1年間に10人、10年で100人のピアニストの演奏をお楽しみいただく「ピアニスト100」シリーズも、いよいよ最後の年を迎えます。後半の第51回(2002年4月)からは日本が誇る世界のピアニスト中村紘子さんを音楽監督にお迎えし、現在活躍中の俊英のピアニストや、今後必ず大活躍するであろう若手アーティストなど、国際的な視点からバラエティに富んだ人選でご紹介してまいりましたが、今回もまた、最終年を飾るにふさわしい豪華多彩なラインナップが揃いました。

また、2006年シリーズの9公演が聴け、更に記念すべき100人目の公演を優先・特別価格で購入できるお得な<9回連続券>も発売いたします。是非シリーズを聞き通し、多彩なピアニストたちの奏でる調べをお楽しみください。

2006年シリーズを語る

音楽監督 中村 紘子 Hiroko Nakamura

この「ピアニスト100」シリーズも、本年度でついに百人目を迎えます。私がその一番目の役を演じてから、もう十年がたったのかと思うと、なんだか胸がいっぱいになります。

さて、91番目、今年のトップバッターは、アリス＝紗良・オットちゃん。十五歳のときに出したリストのバガニーニ練習曲集のCDは、ドイツにセンセーションを巻き起しました。開花前夜の素晴らしい花のつぼみを楽しんで下さい。

ホワン・チューファンは05年度のクリーヴランド国際コンクールで優勝、いままさに豪華絢爛に開花した、というところです。

ケマル・ゲキチは、ショパン・コンクールでの「噂」が大きく一人歩きをし、関心を呼びました。さて、本物はどうでしょうか。

変って日本最大のホープ、北村朋幹くんです。05年の浜松国際ピアノアカデミーに参加し、鮮烈な印象を残しました。上原彩子さんを出した、ヤマハ・マスタークラスで勉強中の十五歳。

アンティ・シーララは、メジャーな国際コンクールの四冠王。若さに似合わず大人の音楽を備えた人です。

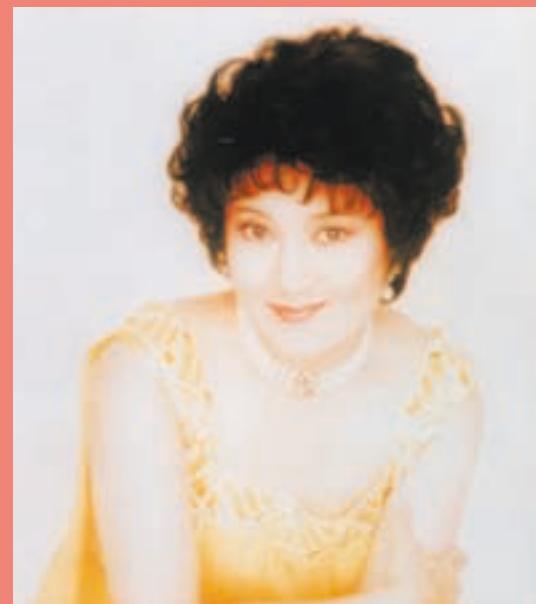
そして、シプリアン・カツアリス。今年はモーツアルト年ですが、彼、モーツアルトにそっくりだと思いませんか？

キム・デジンさんは、02年に韓国で「最も大きな業績を残した演奏家」として賞を受け、同時に「最も素晴らしい先生」としても表彰されました。とても知的で上品な魅力に溢れたピアニストです。

アルカディ・ヴォロドスを知ったのは、アレクサンダー・ガヴリリュクが03年の第五回浜松国際ピアノコンクールのオープニングコンサートで、アンコールにヴォロドス編曲のトルコマーチを弾いたときのことです。凄まじい、の一言に尽きました。ご本人は、どう弾きのけるのでしょうか。

レイフ・オヴェ・アンスネスさんとは、いつかブゾーニ・コンクールで審査をご一緒しました。若いのに落ちついた穏やかな人柄で、私はちょっとフラッとしたかかりました。

そして、百人目は？さあ、こればかりはまだ分りません。11月26日、すなわち第六回浜松国際ピアノコンクールの本選最終日には判明するのですが。ガヴリリュク、コブリンにブレハッチと素晴らしい才能に恵まれてきた「ハママツ」ですが、今年も以前にも増して美しい才能が登場してくれますようにと、心から祈っています。この「ピアニスト100」を有終の美で飾るためにも。



THE
PIANISTS
No.91～No.100

91/100 アリス＝紗良・オット(ドイツ)

4月8日(土) 16:00

一般 S席 3,000円／A席 2,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 2,700円

92/100 ホワン・チューファン(中国)

5月20日(土) 16:00

一般 S席 3,000円／A席 2,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 2,700円

93/100 ケマル・ゲキチ(クロアチア)

6月17日(土) 16:00

一般 S席 4,000円／A席 3,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 3,600円／A席 2,700円

94/100 北村 朋幹(日本)

7月23日(日) 15:00

一般 S席 3,000円／A席 2,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 2,700円

95/100 アンティ・シーララ(フィンランド)

9月10日(日) 15:00

一般 S席 3,000円／A席 2,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 2,700円

96/100 シプリアン・カツアリス(フランス)

10月21日(土) 16:00

一般 S席 5,000円／A席 4,000円
 学生 S席 3,000円／A席 2,000円
 メンバーズ S席 4,500円／A席 3,600円

97/100 キム・デジン(韓国)

11月19日(日) 15:00

一般 S席 3,000円／A席 2,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 2,700円

98/100 アルカディ・ヴォロドス(ロシア)

12月9日(土) 16:00

一般 S席 5,000円／A席 4,000円
 学生 S席 3,000円／A席 2,000円
 メンバーズ S席 4,500円／A席 3,600円

99/100 レイフ・オヴェ・アンスネス(ノルウェー)

2007年2月10日(土) 開演 16:00

一般 S席 4,000円／A席 3,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 3,600円／A席 2,700円

100/100 第6回 浜松国際ピアノコンクール最高位受賞者

3月 ※コンクール本選後に決定

一般 S席 3,000円／A席 2,000円
 学生 S席 2,000円／A席 1,000円
 メンバーズ S席 2,700円

9回連続券 (No.91～No.99)

【メンバーズ優先】1月22日(日) 【一般】1月29日(日) 【発売】

記念すべき100人目の公演を優先・特別価格で購入できるお得な<9回連続券>

《料金》S席連続券:定価33,000円が特別価格24,000円

A席連続券:定価24,000円が特別価格17,000円

★シリーズを通して同じ席を指定できる「マイ・シート」。

お気に入りのお席で聴き比べてみてはいかがでしょうか。

★9回連続券購入者の内で、更に100人目の公演をお申し込みのお客様には、抽選で5名様に2006年シリーズ出演者と音楽監督中村紘子さんのサイン色紙をプレゼント。※9回連続券の販売は4月7日(金)まで

No.91～No.94の各回のチケット

【メンバーズ優先】2月4日(土) 【一般】2月11日(土) 【発売】

THE
PIANISTS
100

THE 100 PIANISTS PROFILE

～シリーズ最終年を飾る 豪華多彩なラインナップ～



91/100 アリス＝紗良・オット Alice Sara Ott

1988年ドイツ人と日本人の両親のもと、ミュンヘンに生まれる。95年ドイツ連邦青少年音楽コンクール優勝を皮切りに、97年スタインウェイ国際、98年イタリア・リゲティ国際、99年ハンブルク音楽ホール、2000年グローテリアン・シュタインヴェーク国際、01年及び02年ミュンヘン・カール・ラング、03年リンダウ・ロータリー・ヤング・ミュージックの各コンクールで全て第1位受賞。03年にはケーテン・バッハ・コンクールで第1位と市長特別賞も獲得。現在、ザルツブルク・モーツアルテウム音楽大学でカール＝ハインツ・ケマリンク氏に師事。



92/100 ホワン・チューファン Huang Chu-Fang

7歳でピアノを始め、12歳で中国の瀋陽音楽学院プレカレッジ・ディヴィジョンに最年少で奨学金全額を得て入学。15歳でアメリカに移住。第12回ヴァン・クライバーン国際コンクールでファイナリストに選ばれ、その2ヵ月後には2005年クリーヴランド国際コンクールで優勝するなど、数々のコンクールで優勝・入賞を果たしている。祖国中国はもとより、ヨーロッパやアメリカにおいても幅広い演奏活動を行っている。カーティス音楽院でクロード・フランク氏に師事。現在ジュリアード音楽院修士課程に在籍しロバート・マクドナルド氏のもとで研鑽を積んでいる。



93/100 ケマル・ゲキチ Kemal Gekic

1981年リスト国際ピアノコンクール第2位。85年のショパンコンクールでは、優勝候補とされながら審査員の意見が分かれたため本選に残れなかったが、聴衆から圧倒的な支持を受け話題となった。ヨーロッパ、日本、カナダ、ソビエト、中東における広範囲にわたる活動の他、レコーディングも活発に行い、「超絶技巧練習曲集」のCDではリストの第一人者として不動の地位を得た。99年のユゴ紛争後、フロリダ在住、フロリダ州立大学の教授も務める。2001年以降毎年来日し、圧倒的なスケールの演奏で聴衆を魅了しつづけている。



94/100 北村朋幹 Tomoki Kitamura

1991年生まれ。現在名古屋市立桜丘中学校在学。3才からヤマハ音楽教室に学び、2004年よりヤマハマスタークラスに在籍。江口文子、丹羽幸の各氏に師事。04年第9回エトリンゲン国際青少年ピアノコンクール(ドイツ)カテゴリーA(15才以下)第5位。05年第10回浜松国際ピアノアカデミーに参加し、同コンクールで第4位受賞。同年第3回東京音楽コンクール第1位・審査員大賞を受賞。これまでに英国王立音楽院デュークスホール(イギリス)、オーチャードホールなどにおけるコンサートに出演。また、04年以降たびたびテレビ朝日系「題名のない音楽会21」に出演している。



95/100 アンティ・シーララ Antti Siirala

1979年ヘルシンキの音楽一家に生まれる。7歳でオーケストラと初共演し、フィンランドの数多くの音楽コンクールで入賞。近年、シベリウス・アカデミーでマッティ・ラエカリオ、イヴァリ・イルヤの各氏に師事。97年第10回ウィーン・ベートーヴェン国際コンクールで最年少第1位、2003年にはAXAダブリン国際コンクール、リーズ国際コンクールでいずれも優勝し一躍注目を集めた。ヨーロッパの主要音楽都市でソリストとして著名な指揮者と共に演奏、多くの音楽祭にも出演、またイギリス室内管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、フィンランド放送交響楽団などにも客演している。



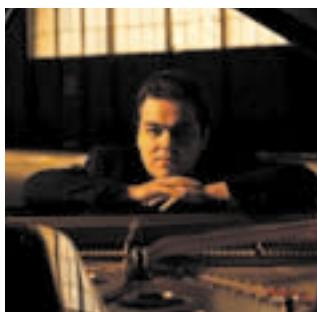
96/100 シプリアン・カツアリス Cyprien Katsaris

1951年マルセイユ生まれ。4歳からピアノを学ぶ。パリ・コンセルヴァトワールを首席で卒業。70年チャイコフスキ国際、72年エリーザベト国際各コンクール入賞、74年シフラ国際コンクール優勝。音楽院在学中から天才の誉れ高く、66年シャンゼリゼ劇場の公式デビュー以来、稀代のテクニシャンとして世界的に活躍。オーマンディ、バーンスタイン、ラトル、ベルリン・フィル、コンセルトヘボウ管等世界一流のアーティストと共に演奏。録音も数多く、グラミー賞他多数受賞。2000年フランス政府叙勲、01年パリ市バーミル・メダル受賞。ユネスコ平和アーティスト。



97/100 キム・デジン Kim Daejin

1985年第6回ロベルト・カサドシュ(現クリーヴランド)国際ピアノコンクール優勝。86年ニューヨーク・デビュー。87年クリーヴランド管との共演を皮切りに、国際的ソリストとして活躍。ジュリアード音楽院にて、マーティン・キャニン氏の指導のもと学士・修士・博士号を修得。現在韓国国立芸術大学教授として国際コンクールで入賞者を数多く輩出、優れた指導者としても高く評価されている。また国際コンクール審査員としても活躍。2002年韓国音楽協会より「ミュージシャン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、韓国東亜日報より「韓国で最も有名なピアニスト」の称号を受ける。



98/100 アルカディ・ヴォロドス Arcadi Volodos

1972年サンクト・ペテルブルク生まれ。サンクト・ペテルブルク音楽院で声楽と指揮法を学んだ後、87年ようやく本格的なピアノの専門教育を受け始めた。ガリーナ・エギアザローワ、ジャック・ルヴィエ、ディミトリ・バシュキーロフの各氏に師事。96年ニューヨーク・デビューを皮切りに世界的な活動をスタート。世界の主要なオーケストラ、著名な指揮者との共演、リサイタルなどで絶賛された。2002年のザルツブルク音楽祭デビューは鮮烈で、以後毎夏のザルツブルクに欠かせない存在となった。CDもいずれも評価が高く、天才の呼び声をほしいままに活躍を続けている。



99/100 レイフ・オヴェ・アンスネス Leif Ove Andsnes

1970年ノルウェーのカルメイ生まれ。ベルゲン音楽院でチェコ出身のイルジー・フリンカ氏に師事。90年代初めに世界の楽壇にデビューして以降、一流オーケストラ・指揮者との共演、リサイタル、室内楽にも取り組み、搖るぎない演奏活動を通じて聴衆の共感と昂奮を呼び起こしている。リソール音楽祭の共同芸術監督として世界的なアーティストをノルウェーに招く一方、自身もヨーロッパ各地の音楽祭の常連である。レコーディングも数多く、3度のグラモフォン・アワード受賞歴を持つ。2002年ノルウェーで最高の栄誉とされる聖オラフ・ロイヤル・ノルウェー上級勲章を受ける。

THE 100 PIANISTS LAST CONCERT



100/100

第6回 浜松国際ピアノコンクール最高位受賞者

Winner of the 6th Hamamatsu International Piano Competition

浜松国際ピアノコンクールは、浜松市が市制施行80周年を記念して1991年に発足以来3年ごとに開催されている。98年国際音楽コンクール世界連盟に加盟。第3回からは中村紘子が審査委員長を務める。これまでに、アレッシオ・バックス(97年第1位)、アレクサンダー・ガヴリリュク(2000年第1位)、上原彩子(00年第2位)、イム・ドンヒョク(00年第2位)など、若手ピアニストを次々に輩出。また03年第5回で最高位を分かち合ったアレクサンダー・コブリンとラファウ・ブレハッチは、05年ヴァン・クライバーン国際コンクール、ショパン国際コンクールでそれぞれ優勝した。

～PICK UPでは紹介しきれなかった、1月から3月に発売される公演情報～

CINEMA

彩の国シネマスタジオ

「輝ける青春」*La meglio gioventù*

「そして ふたたび 愛につつまれ 時はめぐる」

彩の国シネマスタジオ1周年記念にお送りする作品は、イタリアのある家族の涙と喜びに満ちた40年を描く6時間の壮大な感動作です。希望を胸に人生を切り拓いていく兄ニコラと、才能がありながら繊細すぎて人生うまく向き合うことが出来ない弟マッテオがフィレンツェの洪水や、トリノの学生運動、そして「赤い旅団」のテロ活動といった事件を目撃し、体験する中イタリアを揺るがした様々な出来事の証人となったり、時にはそこに巻き込まれていく過程で、次第に20世紀後半のイタリアという国の姿が浮き彫りにされています。「旅芸人の記録」「1990年」「ファニーとアレクサンデル」など“人間と時代”を描く長編ヨーロッパ映画の伝統を継承する新たな傑作が芸術劇場にやってきます。

- ◆4月8日(土)／9日(日) 両日とも開演10:30(終演17:40) ※13:30～14:30は休憩になります ◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
- ◆監督:マルコ・トゥリオ・ジョルダーナ ◆出演:ルイジ・ロ・カーショ アレッシオ・ボーニ アドリアーナ・アスティ ソニア・ベルガマスコ ファブリツィオ・ジフーニ マヤ・サンサ ジャスミン・トリンカ ほか(2003年 イタリア 366分)
- ◆チケット(税込):全席自由 一般 3,000円 メンバーズ 2,500円(このチケットは前売りのみで、当日券はありません。)※詳しくは財団チケットセンターまでお問い合わせください。
- ◆メンバーズ優先発売日:2月4日(土) 一般発売日:2月11日(土)

PLAY

志の輔の会～彩の国さいたま寄席



桜咲く4月。春の訪れとともに彩の国さいたま寄席に登場しますのは、テレビなどでお茶の間でも人気、立川志の輔師匠です。大学卒業後、劇団所属、広告代理店勤務を経験するが、29歳の時、立川談志師匠に入門。平成2年5月、立川流真打ち昇進。

古典落語から新しい解釈の元、現代にも通じる落語ワールドへと展開させ師匠である談志も芸を高く評価している。年間150本以上の落語会を開く他、毎年新作落語の会『志の輔らくごinPARCO』や『志の輔らくご 21世紀は21日』を開催し新感覚の落語を提案している。落語以外のタレント業でも活躍しており、テレビではNHKの「ためしてガッテン」に司会として、また多くのCMにも出演中。またラジオでは文化放送「志の輔ラジオ 土曜がいい!」において、同局の音源ライブラリーから過去の落語録音を放送するなど落語の普及に努めている。

- ◆4月11日(火) 19:00開演(18:30開場) ◆彩の国さいたま芸術劇場小ホール ◆出演:立川志の輔 ほか
- ◆チケット(税込):一般 3,500円／メンバーズ 3,000円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上)2,500円 ◆メンバーズ優先発売日:1月14日(土) ◆一般発売日:1月28日(土)

DANCE

コンドルズ 埼玉スペシャル公演2006
[勝利への脱出]SHUFFLE escape to victory shuffle]

日本代表コンドルズ、埼玉初登場!

コンドルズとは、男性のみで結成されたダンスカンパニー。舞台衣装は「学ラン」。ハイスピードなシーン展開で、ダンス、映像、生演奏、人形劇、演劇を緻密な計算のもと縦横無尽に使いこなすステージングで話題の嵐に。現在、日本全国、世界各地で大活躍中。NHK教育『トップランナー』にも出演し、かのニューヨークタイムズ紙でも大絶賛。主宰の近藤良平は『氣志團現象TOUR'04』やNHK教育『からだであそぼ』の振付、同番組内レギュラーコーナー『こんどうさんちのたいそう』では出演も。

2006年コンドルズは、12トップの超攻撃型フォーメーションで勝負!

- ◆5月13日(土) 19:00開演(開場は開演の30分前) ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
- ◆チケット(税込):一般 前売4,000円／当日4,500円／学生2,000円 メンバーズ 前売3,600円／当日4,050円
- ◆メンバーズ優先発売日:2月18日(土) ◆一般発売日:2月26日(日) ◆構成・映像・振付:近藤良平 出演:コンドルズ

MUSIC

アンサンブル・ウィーン=ベルリン

「世界最高の木管アンサンブルによる至福のモーツアルト」



1983年にウィーン・フィルとベルリン・フィルの首席奏者らによって結成されたアンサンブル・ウィーン=ベルリン。ウィーンでのセンセーショナルな成功以来、瞬く間に「世界最高の木管アンサンブル」の地位を得て、今や世界各地のホールの常連となっています。1999年にメンバーの交代がありましたが、以後もザルツブルク、フィレンツェ5月、ルツエルンなどの世界の主要音楽祭に招かれ、特にボリーニとの共演は大きな話題を集めました。フランスの室内楽作品や現代曲まで幅広いレパートリーを誇り、モーツアルト生誕250年の今年は、オール・モーツアルト・プログラムで当劇場に初登場します。世界最高とされる彼らの演奏をお楽しみください。

- ◆5月16日(火) 19:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
- ◆出演者:フルート／ウォルフガング・シュルツ(ウィーン・フィル首席奏者) オーボエ／ハンスイェルク・シェレンベルガー(元ベルリン・フィル首席奏者、ベルリン・ハイドン・アンサンブル創立者) クラリネット／ノーベルト・トイブル(ウィーン・フィル首席クラリネット奏者) ファゴット／ミラン・トルコヴィッチ(元ウィーン交響楽団、ウィーン・コンツェントラス・ムジクス首席奏者) ホルン／シュテファン・ドール(ベルリン・フィル首席奏者)
- ◆曲目:〈オール・モーツアルト・プログラム〉モーツアルト アダージョとアレグロ K.594、幻想曲 K.608、アンダンテ へ長調 K.616 他
- ◆チケット(税込):一般 S席4,500円／A席3,500円／学生席1,500円 メンバーズ S席4,050円／A席3,150円
- ◆メンバーズ優先発売日:2月11日(土) ◆一般発売日:2月18日(土)

MUSIC

フェドセーエフ指揮／モスクワ放送交響楽団
ピアノ／小山実稚恵

ロシアの巨匠指揮者ウラディーミル・フェドセーエフが、最も信頼を寄せる日本人ピアニスト小山実稚恵さん。彼女が得意とするラフマニノフの協奏曲第2番を取り上げ、2004年5月以来2年ぶりの共演が、埼玉会館で再び実現します。モスクワ放送交響楽団は、1930年に設立されたモスクワで最も長い歴史を誇るオーケストラ。フェドセーエフとの絆は深く、74年に音楽監督に就任以後、ロシアのトップクラスの楽団に育て上げ、世界ツアーを通じて海外での評価を確立しました。オール・ロシア・プログラムとなる本公演の後半、チャイコフスキイの交響曲第6番では、フェドセーエフの渾身の、そしてロシアの憂愁を秘めた演奏に期待が高まります。

- ◆5月27日(土) 17:00開演 ◆埼玉会館 大ホール
- ◆指揮／ウラディーミル・フェドセーエフ ◆演奏／モスクワ放送交響楽団 ピアノ／小山実稚恵
- ◆曲目:ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番 ハ短調／チャイコフスキイ 交響曲第6番 口短調「悲愴」
- ◆チケット(税込):一般 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円 学生席2,000円 メンバーズ S席7,200円 A席5,400円 B席3,600円
- ◆メンバーズ優先発売日:2月18日(土) ◆一般発売日:2月25日(土)

CULTURE

源氏語り54帖 華麗なる翳り



『源氏物語』の最大の見せ場である「若菜」、そして光源氏のかつての因果が巡り来る「柏木」をお送りいたします。【若菜下】朱雀院五十賀の祝に女三宮・紫上・明石女御・明石御方の女樂の演奏が華やかに行われる。蹴鞠の折垣間見してしまった女三宮のことが忘れない柏木は、ついに女三宮と一夜をともにしてしまう。【柏木】女三宮とのことが光源氏に知れることとなり、病に臥せる柏木。実は柏木の子である薰を抱いた光源氏は、かつて藤壺との関係の罪の報いが廻ってきたと恐れる。平成18年7月からは、源氏物語中最大の巻で、さまざまな局面が織り込まれ、重厚にして、長大な巻となっている若菜巻の後半からです。

- ◆彩の国さいたま芸術劇場小ホール ◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説／フェリス女学院大学教授)
- ◆第31回 若菜下 ①(わかなげ ①) 7月8日(土) 第32回 若菜下 ②(わかなげ ②) 9月9日(土) 第33回 柏木(かしわぎ) 10月1日(日) 各回とも14:00開演(13:30開場)
- ◆チケット(税込):全席指定 一般 一回券 2,500円／三回連続券 6,600円 メンバーズ優先発売日:2月26日(日) ◆一般発売日:3月12日(日)

PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾 間違いの喜劇

◆2月3日(金)～2月19日(日)<18回> ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 ◆演出:蜷川幸雄 作:W・シェイクスピア 翻訳:松岡和子 ◆出演:アンティオコス兄・弟(2役):小栗旬／ドロミオ兄・弟(2役):高橋洋
 エイドリーナー:内田滋／ルシニア:月川悠貴／エミリア:鶴見辰吾／イジオーン:吉田鋼太郎／バルサザー:蜷川哲朗 他
 ◆チケット(税込):一般 S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円 メンバーズ S席8,100円 A席6,300円 B席4,500円

**MUSIC ガヴリリュク in 彩の国 シリーズ 第2回 アレクサンダー・ガヴリリュク ピアノ・リサイタル**

◆2月5日(日) 15:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 ◆チケット(税込):一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席1,000円 メンバーズ S席3,600円 A席2,700円
 ◆曲目:ハイドン ピアノソナタ 短調 Hob.XV-32／ブラームス バガニーニの主題による変奏曲 イ短調 op.35／ムソルグスキー 組曲「展覧会の絵」

**CINEMA 彩の国シネマスタジオ『乱れ雲』**

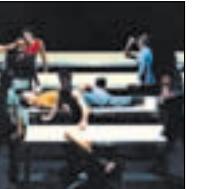
◆2月11日(土) ◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール ◆監督:成瀬巳喜男 [1967年 東宝] ◆出演:司葉子、加山雄三、草笛光子、森光子、浜美枝、加東大介、土屋嘉男、藤木悠 他
 ◆チケット(税込):全席自由 前売:一般 大学生1,000円 小中高生:800円 当日:各200円増(各回完全入替制)
 ◆上映時間:①10:30 ②14:00 ③18:30 ※各日②の上映終了後にゲストトークあり ※お知らせこれまで2月11日の上映作品は、「カルメン故郷に帰る」とお知らせしていましたが、都合により、上記作品に変更となりました。あしからずご了承ください。

MUSIC 小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

◆2月25日(土) 16:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール ◆チケット(税込):一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席1,000円
 メンバーズ S席3,600円 A席2,700円 ◆曲目:モーツアルト 幻想曲 二短調 K.397／シューマン 幻想曲 ハ長調 op.17／モーツアルト デュボールのメヌエットによる9つの変奏曲 K.573／ショパン 夜想曲 變ロ短調 op.9-1、マズルカ イ短調 op.67-4、マズルカ 嬰ハ短調 op.50-3、アンダンテ・スピアナートと華麗な大ポロネーズ 變ホ長調 op.22、ポロネーズ 第6番 變イ長調 op.53「英雄」

**DANCE The Forsythe Company 2006**

【Aプログラム】"You made me a monster" Performance-Installation ◆2月28日(火)／3月1日(水)
 1日4回 17:00／18:00／19:00／20:00(オールスタンディング・各回85名限定 入替制)
 ◆チケット(税込):一般 前売 8,000円 当日 8,500円 メンバーズ 前売7,200円 当日 7,650円
 【Bプログラム】"Clouds after Cranach" "7 to 10 Passages" "One Flat Thing, reproduced" ◆3月4日(土) 19:00／3月5日(日) 16:00
 ◆チケット(税込):一般 前売 S席10,000円 A席8,000円 学生B席5,000円(前売りのみ) 当日 S席11,000円 A席8,500円
 メンバーズ 前売 S席9,000円 A席7,200円 当日 S席9,900円 A席7,650円 ◆各プログラム 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

**MUSIC 90/100 福間洸太朗(日本)**

◆3月4日(土) 16:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 ◆チケット(税込):一般 S席3,000円 A席2,000円 学生S席2,000円 学生A席1,000円 メンバーズ S席2,700円
 ◆曲目:モーツアルト ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 K.331「トルコ行進曲付き」／ブラームス 4つのバラード op.10／武満徹 閉じた眼、閉じた眼Ⅱ
 アルベニス 組曲「イベリア」より 第7曲 エル・アルバイン、第8曲 エル・ボロー、第9曲 ラバビエス

**CULTURE 源氏語り54帖 第30回 若菜上(3) 重厚な織物のような物語。**

◆3月12日(日) 14:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 ◆チケット(税込):全席自由 2,500円 ※公演当日12:00からホール入り口にて整理券を配付します。 ◆出演者:幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説)/フェリス女学院大学教授)

PLAY エミーリア・ガロッティ ドイツ語上演・日本語字幕付 東京国際芸術祭招請公演

◆3月19日(日) 15:00／20日(月) 19:30／21日(火・祝) 15:00(計3公演) ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 ◆チケット(税込):一般 S席5,000円 A席3,000円 学生席1,000円 メンバーズ S席4,500円 A席2,700円
 ◆原作:ゴットホルト・エフライム・レッシング／演出:ミヒャエル・タールハイマー／演出:ドイツ座 主催:NPO法人アートネットワーク・ジャパン、財団法人埼玉県芸術文化振興財団、東京ドイツ文化センター 助成:財団法人地域創造／アサヒビル芸術文化財団 特別協賛:アサヒビル株式会社

**MUSIC 彩の国ベートーヴェン 諸井誠&仲道郁代 レクチャー・コンサート 第12回 ベートーヴェンの全32曲のピアノ・ソナタを語り、聴く会(全12回)**

◆3月18日(土) 15:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 ◆チケット(税込):一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席1,000円 メンバーズ S席3,600円 A席2,700円
 ◆出演:諸井誠(おはなし)、仲道郁代(ピアノ・おはなし) ◆曲目:ピアノ・ソナタ 第29番 變ロ長調 op.106《ハンマークラヴィア》(第3、4楽章)
 ※第12回の公演終了後、諸井誠氏と仲道郁代さんを囲んでのレセプションを開催する予定です。(おひとり様500円。第10回～第12回(3回セット券)をご購入いただいた方は無料でご入場いただけます。)

**MUSIC オルガン・ミニ・コンサート ~ポジティブ・オルガンと仲間たち~ 第8回**

◆3月18日(土) 14:00開演 ◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ◆監修:鈴木雅明／構成:大塚直哉
 ◆解説:廣野嗣雄(東京芸術大学教授)／オルガン:東京芸術大学大学院生 ◆入場無料

DANCE トリシャ・ブラウン・ダンス・カンパニー

◆3月24日(金) 19:30／25日(土) 15:00／26日(日) 15:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 ◆チケット(税込):一般 S席7,000円 A席5,000円 学生A席2,000円 メンバーズ S席6,300円 A席4,500円
 ◆演出:「アキュムレーション ウィズ・トーキング・プラス・ウォーターモーター Accumulation with Talking plus Watermotor」(映像上映)
 監督:ジョンサン・デミ 振付・出演:トリシャ・ブラウン 制作:1979年
 「セット・アンド・リセット Set and Reset」 振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ローリー・アンダーソン 美術:ロバート・ラウシェンバーグ 初演:1983年
 「プレゼン・テンス Present Tense」 振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ジョン・ケージ 美術:衣笠エリザベス・マーレイ 初演:2003年
 「グルーヴ・アンド・カウンターモーヴ Groove and Countermove」 振付:トリシャ・ブラウン 音楽:ティヴ・ダグラス 美術:テリー・ウインタース 初演:2000年

**PLAY 英国ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー主催 「シェイクスピア・フェスティバル」正式招待作品 タイタス・アンドロニカス**

◆4月21日(金)～20公演> ◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 ◆演出:蜷川幸雄 作:W・シェイクスピア 翻訳:松岡和子 ◆出演:タイタス・アンドロニカス:吉田鋼太郎 タモーラ:麻実れい
 マーカス・アンドロニカス:曇晴彦 サターナイナス:鶴見辰吾 ラヴィニア:眞中瞳 エアロン:小栗旬 他
 ◆チケット(税込):一般 S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 メンバーズ S席8,100円 A席6,300円 B席4,500円

**チケットの購入方法について****窓口 販売**

各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

窓口営業時間

彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00(休館日を除く)
 埼玉会館 10:00～19:00(休館日を除く)
 熊谷会館 10:00～17:00(休館日を除く)

電話 予約&販売

チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。
 ※埼玉会館、熊谷会館ではチケットの電話予約は行っておりません。

チケットセンター営業時間

財団チケットセンター
 048-858-5511 10:00～19:00(休館日を除く)

インターネット販売

ホームページ(<http://www.saf.or.jp/>)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

インターネット営業時間

発売日10:00から公演日前日19:00まで

『サポートー会員』入会のご案内

財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、設立以来10年間、事業活動を通じて県民の皆さまをはじめとして舞台芸術を愛する多くの方々に優れた作品を数多くご提供してまいりました。一方、自ら舞台芸術を制作される県民の皆さまに対しても、日々の稽古の場、練習の場として、またその成果の発表の場として様々な応援をさせていただいております。彩の国さいたま芸術劇場をはじめ、埼玉会館、熊谷会館の企画・運営につきましては、主として埼玉県から大きな支援を受けておりますが、さらに充実した活動を行うためには、多くの法人・窓口の方々の財政面でのご協力を必要といたします。埼玉県の芸術・文化活動を推進してゆくうえで、県民の皆さまの暖かいご支援を賜りたく、2005年4月から「サポートー会員制度」を導入いたしました。すでに、多くの県内企業の方々にご賛同いただき、ご入会いただいております。

■年会費について

- 特別サポートー会員 年会費(1口) 300万円(消費税込)
- サポートー会員 年会費(1口) 10万円(消費税込)

*ご希望により何口でもお申込みいただけます。有効期限は、入会月から1年間となります。

■『サポートー会員』の特典

- 特別サポートー会員
 - (1)劇場サポートボードへのロゴ・社名掲出
 - (2)財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページへの社名掲出
 - (3)アーティストとのセレブレーション・パーティへのご招待
 - (4)御社主催コンサート・ワークショップなどの主催(出演料別途)
 - (5)財団主催公演のご招待(全公演2席程度)
 - (6)自主事業公演チケットの20%割引販売
 - (7)財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読
- サポートー(法人・個人)
 - (1)劇場サポートボードへの社名掲出
 - (2)財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」、ホームページへの社名掲出
 - (3)財団主催公演のご招待(1口10万円につき3万円程度の特定公演にご招待)
 - (4)自主事業公演チケットの20%割引販売
 - (5)財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」定期購読

■サポート企業一覧(50音順 12月末現在)

アサヒ印刷(株)／FM NACK5／(株)エフテック／(株)オメダム
 金井大道具(株)／(株)亀屋／カヤバ システム マシナリー(株)
 (有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉トヨタ自動車(株)
 埼玉りそな銀行／JA/JA埼玉県信連／(株)十万石 ふくや
 (株)タムロン／東京ガス(株)／東京電力(株)埼玉支店／東芝
 ライテック(株)／(株)テレピ崎玉ミュージック／日本データコム(株)
 (株)バフィックアートセンター／(株)ビルメン／武州ガス(株)
 (株)松本商会／武蔵野銀行／森平舞台機構(株)／リズム時計
 工業(株)／(株)八木橋／(株)与野フードセンター

表紙 彩の国シェイクスピア・シリーズ 第4弾

「リア王」 ©谷古宇 正彦

裏表紙 彩の国シェイクスピア・シリーズ 第13弾
 「タイタス・アンドロニカス」 ©高嶋ちくさ

**ご注意及びお願い事項**

●チケット発売初日は、1回あたりのご購入・ご予約の枚数を制限させていただく場合がございます。また、お電話でのご予約の場合、お座席のご案内を行っておりません。ご了承ください。
 ●ご購入いただいたチケットのキャンセル・交換、再発行は一切できませんのでご注意ください。
 ●チケット紛失の際は、各公演の主催者にお問い合わせください。

チケット代の支払い方法

■窓口 現金、クレジットカード
 ■電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込
 ■インターネット クレジットカードのみ
 ●コンビニエンスストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。
 ●お支払いいただく代金は、チケット代金十セキュリティパック代(400円)になります。
 ●各館で、電話予約済みのチケットをご精算、お引き取りいただけます。
 ●当日券のご精算にもクレジットカードをご利用いただけます。
 ●セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて
 ●セット券・連続券は、原則として開催館のみ、前売りのみ(開催日の前日まで)のお取り扱いです。
 ●学生券をご利用の際は、チケット購入時・公演当日とも学生証をご持参ください。
 ●各種チケット割引サービスは併用できません。

彩の国さいたま芸術劇場

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
 電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
 電車でのアクセス JR埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
 または①番乗り場からバス
 新宿から快速で27分、各駅停車で40分
 大宮から快速で4分、各駅停車で6分(通勤快速は停車しません。)
 大宮駅から快速停車で2分、各駅停車で40分
 駐車場 155台 最初の一時間無料、それ以降は300円/時間
 ※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

埼玉会館

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
 電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
 電車でのアクセス JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分
 上野駅から快速で27分、各駅停車で40分
 駐車場 39台(うち1台専用

CONTENTS

- 02 特別対談 上田清司×蜷川幸雄
06 Special Message 就任にあたり
08 PICK UP 間違いの喜劇
10 PICK UP タイタス・アンドロニカス
12 PICK UP トリシャ・ブラウン
13 PICK UP フォーサイス
14 PICK UP エミーリア・ガロッティ
16 EVENT INFORMATION
ピアニスト100 中村紘子
20 EVENT INFORMATION
22 EVENT CALENDAR